

お客様へ

追加機能に関するお知らせ

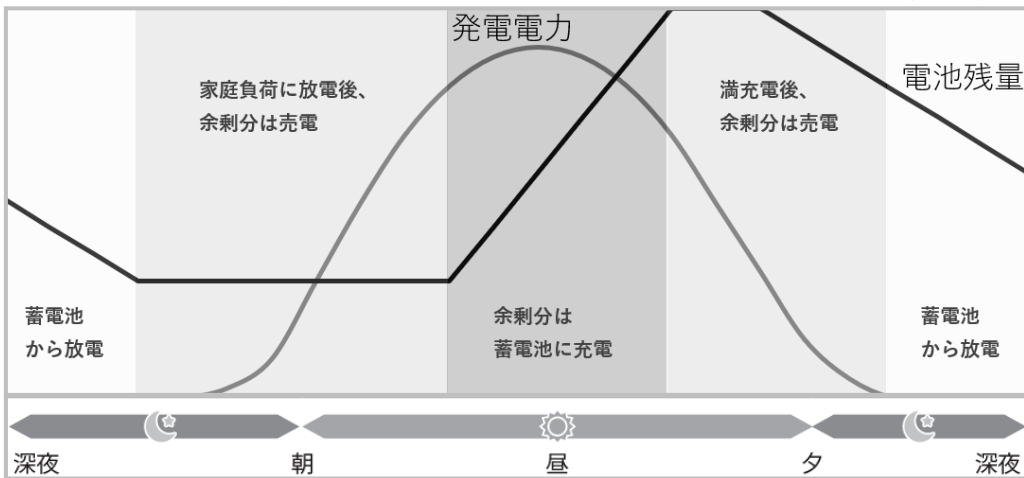
トライブリッド蓄電システムをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
このたび、太陽光発電パネル定格の容量が 8.0kW 以上の場合に限り、余剰充電制御の選択機能を追加しました。

この機能は、蓄電池へ余剰充電するときの**時間帯および充電電力を最適化する制御**の“する”/“しない”を選択するもので、“しない”を選んでも蓄電池への余剰充電はおこなわれます。

本通知では、お手元の取扱説明書の記載内容から異なる部分についてご案内いたします。
取扱説明書内の余剰充電制御に関する記述を読み替えていただきますようお願いいたします。

●余剰充電制御について（取扱説明書 16 ページ参照）

余剰充電制御とは太陽光発電電力の余剰分を朝方に売電し、正午付近の太陽光発電電力が多くなる昼頃に蓄電池へ充電することで、太陽光発電電力を無駄なく最大限に活用できる制御です。



- ※ 上図はイメージであり、家庭での電気使用量や太陽光発電パネル定格の容量によって電池残量の動き方は異なります。
- ※ 車両がコネクタロック中は本制御をおこなわず、通常のグリーンモードとして動作します。
- ※ 雨天・曇天時は十分な発電電力が確保できず、蓄電池への充電量が少なくなる場合があります。

●制御を“しない”がおすすめの方

天候や季節の要因により太陽光発電電力が低下した場合、蓄電池が満充電にならないケースがあるため、なるべく多く蓄電池へ充電して電力活用したい方は裏面の手順に従い画面 3 で“しない”を設定してください。

制御	余剰充電の特徴	メリット	デメリット	こんな方におすすめ
する (出荷時設定)	<p>最大 2kW 充電 昼頃に余剰充電を開始</p>	<p>時間を長くすることで、 日中の発電電力を最大限に活用</p>	<p>発電電力が十分に ないで満充電に到達 できない場合がある</p>	日中の太陽光発電電力を余すことなく使いたい方
しない	<p>余剰分を定格 最大で充電 昼を待たずに余剰充電を開始</p>	<p>余剰充電による 満充電到達が期待 できる</p>	<p>満充電後は電池に充電しないため、 発電電力は 5.9kW が最大</p>	なるべく多く蓄電池へ充電して電力活用したい方

- ※ “する”を選択した場合、余剰充電の開始タイミングはその日の正午付近を基準に本製品内で自動的に計算され、太陽光発電パネルの容量、蓄電池ユニットの残量によって日ごとに異なります。
- ※ “する”を選択した場合、蓄電池ユニットの残量が多いと余剰電力による充電時間が短くなり、電力契約によっては経済性が損なわれるおそれがあります。余剰充電ができるよう電力会社の電力で充電する充電量を抑えるように充電開始時刻/停止時刻および充電上限設定を確認してください。
- ※ “しない”を選択した場合、下記のとおり蓄電池の種類によって余剰充電の最大電力が異なります。
(ES-T3S* : 2.0kW / ES-T3M* : 3.0kW / ES-T3L* : 4.0kW / ES-T3X* : 4.0kW / ES-T3F* : 3.5kW)
- ※ “しない”を選択した場合、蓄電池ユニットが満充電になると系統連系出力の定格 5.9kW を超える太陽光発電電力を満充電の蓄電池へ充電することができないため、経済性が損なわれるおそれがあります。

●“しない” を選択する手順

1 「モード」 をタッチする



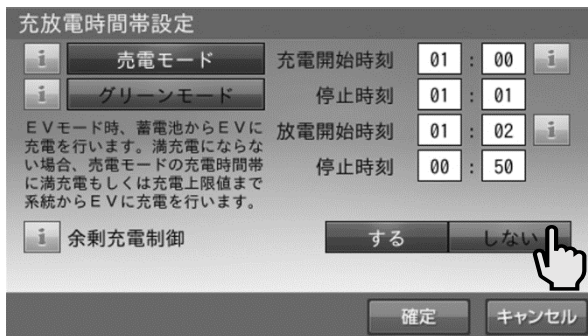
「運転モード設定」画面に切り替わります

2 「充放電時間帯設定」 をタッチする

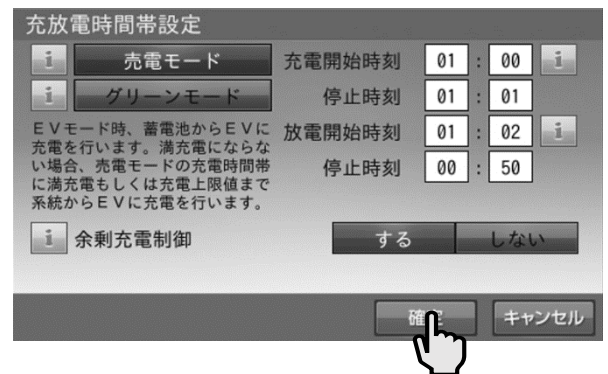


「充放電時間帯設定」画面に切り替わります。

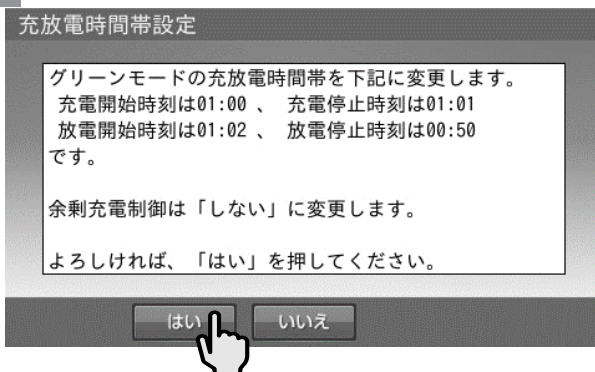
3 「しない」 をタッチする



4 「確定」 をタッチする



5 「はい」 をタッチする



設定した時刻を確定し、「運転モード設定」画面に切り替わります。

メモ

- 充電と放電の時間帯が重複しないように設定してください。誤った設定をすると確認画面が表示されるので、「戻る」をタッチして再設定してください。
- 充電時間と放電時間の合計は、23 時間 50 分以内に設定してください。範囲外の設定をすると確認画面が表示されるので、「戻る」をタッチして再設定してください。

取扱説明書に記載されている内容を上記のとおり、読み替えていただきますようお願いいたします。
この「お知らせ」は、取扱説明書とともに大切に保管してください。